

【算数科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 習熟度別指導の特性を生かし、習熟度に合った教材や支援の方法を取り入れ、児童の学習状況を見取り、タブレットPCを活用した算数ステップアップ学習やたしかめプリントを確実に実施することで、基礎的・基本的な学習内容の定着に活かした。
- 問題解決学習の流れに沿った指導に取り組むよう学習計画を立て、習熟度に合った課題に取り組ませた。
- △問題解決する際、文章から情報を読み取り、情報を活用して立式したり、式が表す意味を考えたりして、理由を説明・記述することに課題がある。

2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	知識・技能については、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っていた。 5年生は、小数のしくみに関する問題、また、直方体のある辺に平行な辺に関する問題やひし形の作図に関する問題の正答率が低かった。 6年生は、基準量と比較から割合を求める問題に関する正答率が低かった。	思考・判断・表現については、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っていた。 6年生は、偶数について理解し、6枚の数カードのうちの3枚を使って、最も700に近い偶数をつくる問題の正答率が低かった。	主体的に学習に取り組む態度については、記述形式の解答の値から見ると、どの学年も目標値及び全国、区の平均正答率を上回っていた。 5年生は基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらのゴムがよくのびたのかを説明する問題の正答率が低かった。
課題	- 複数の学年で、式が表す意味を問われる問題の正答率が低い。また、文章から状況を読み取り、情報を活用し立式したり、理由を説明・記述したりすることに課題がある。 - 特に、4年生は「大きい数・小数・分数」「わり算」、5年生は「億と兆・概数の表し方」「小数」「分数」「いろいろな形」「簡単な場合についての割合」、6年生は「分数と小数」「整数のなかま分け」「小数の計算」「多角形と円・合同」「割合」に関する問題の正答率が低い。		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	学習指導要領の教科の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。 (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
全体	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 既習の内容を生かし問題解決学習の流れを身に付ける。筋道を立てて考えたり説明したりする資質能力を育成するために、自分の考えを発言したり、友達の考えを聞いたりして、より考えを深める学習を進める。また、児童が問題を解決したいと意欲を喚起させる発問や教材提示などを工夫する。
学年段階別改善策	
低学年	- 長さや水のかさなど、身の回りの量を扱う単元では、定規や量りなどを直接使ったり、代わりになる物で大きさを比べたりして学んだことを生かして、量の単位や測定の意味について理解を深められるようにする。 - 数や時間の概念を定着させるために、おはじきやブロック、疑似時計などの具体物を使い、理解できるようにする。 - 計算の基本となるたし算やひき算、かけ算九九は、計算カードやドリルパークなどの教材を活用して、反復学習による知識の着実な定着を図る。 - 児童に、自分の考え方やその理由、また友達の考え方やその理由を説明させる場面を設け、自分の考えに活用する力や理由を説明・記述する力が身に付くようにする。 - タブレットPCを活用して、単元毎に算数ステップアップ学習を確実に実施できるようにする。児童の学習状況によって、ドリルパーク、ワークシートなどで既習事項の学び直しや反復学習に取り組んだり、発展的な内容の学習や課題学習に取り組んだりして学力の向上を図る。
中高学年	- 問題提示後に、見通しをもつ→自力解決（絵、図、式、言葉など）→友達と考え方の交流→全体の交流→検討→適用問題という、問題解決の流れを、割合や掛け算、割り算の問題の場面で取り入れ、筋道を立てて立式して、論理的に考える力を身に付ける。 - 児童に、問題の情報を読み取り、自分の考え方やその理由、また友達の考え方やその理由を説明させる場面を設け、自分の考えに活用する力や理由を説明・記述する力が身に付くようにする。 - コンパス、分度器など、道具を扱う単元では、習熟度に応じて、基礎的な使用方法を丁寧に確認する時間を取り、道具を活用する技能を高め、問題を解く力を身に付ける。 - タブレットPCを活用して、単元毎に算数ステップアップ学習を確実に実施できるようにする。児童の学習状況によって、ドリルパーク、学習効果測定フォローアップ、ワークシートなどで既習事項の学び直しや反復学習に取り組んだり、発展的な内容の学習や課題学習に取り組んだりして学力の向上を図る。